



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「飼料米を専用品種にすると転作作物が心配・・・水活交付金の見直し」

農水省が検討する飼料用米への転作助成の見直しで、飼料用米の生産を検討していく中で専用品種を定着させていくこととしている。それは転作に取り組んでいる麦、大豆が後退してしまうとの心配もありますが。

主食用品種で飼料用米を生産するケースで主食用米に戻りやすいとの心配があるが、食料安全保障の強化へ、自給率の低い麦・大豆の生産の確保が必要との説明です。

中長期で見てみたら温暖化による減収と、生産者の高齢化による耕作放棄地の拡大などで米が不足することが現実になりつつある中での保険との意味での、制度の見直しになるようです。

農水省も、主食用米が増えていた時には餌（飼料用）米に回せばいいとか、そういった考え方があっても良いのでしょうか。

輸入飼料が高騰する中で、国産飼料の増産のためにも、専用品種による飼料用米の本格生産で収量の増産が望まれているのです。

国の政策に振り回されている飼料メーカーへの供給量が安定することが原料の配合工場の操業計画を立てやすいなどのメリットとなります。

一方、主食用米として田植えした後に、主食用米の過剰回避へ飼料用に用途変更する動きも産地ではある。こうした主食用米の需給安定に向けた取り組みを優先にした政策が与える影響を踏まえる必要もあります。

【出展します】

こだわり食品フェア（ブースNo：11-120）

2024年2月14日～16日 幕張メッセ（同時開催：スーパーマーケットトレードショウ2024）

プラントベース素材 プロテイン商品の品揃えができました。

今まで大豆ミートの商品開発で悩んだ方にも、良い素材が見つかります。

大豆ミートを補完するプラントベースなどから、ミックスミートなど6種類以上・・・  
えんどう豆ミートからプロテインパウダーなど業務用、メーカー、小売商品までを品揃え  
しています。

~~~~~

ローコストな受託方式のご案内

プロテインに主力商品を転換するにあたり、今までの商品（オートミール、雑穀、もち麦）  
の営業を撤退しますので、商品生産をローコストな受託PB・OEMに切り替えを行います。

＜ローコストの理由

原価プラス実費と包材でローコストな商品づくりができます

自社輸入による低価格な原料と、国内産原料の品揃えの実績があります

穀物専門メーカーでISO22000 認証工場での生産とノウハウは間違いありません

＜穀物の加工機械・設備の4工場

- ・個包装（スティック）6ライン
- ・ゼネラル製自動包装机3台、フルカワ製計量機
- ・ドイツ製グリッツ機、電気乾燥機、レトルト機など
- ・製粉機、シフターなどでの粉袋もできます
- ・スーパー玄米精製機ライン
- ・雑穀ライン
- ・80トンタンクの精米ライン、自動包装机など
- ・パフ加工機、焙煎機など

スティックからスタンドパック、業務用大袋、一回分袋、ブレンドなどの機械で生産でき  
ます

~~~~~